

冠動脈 CT における至適心拍数の検討【128 列 MDCT】

【背景】これまで多くの文献で冠動脈 CT を施行する際心拍数65回／分以下で撮影をすることが推奨されてきたが、臨床においてはその中でも55から59回／分(以下50台)と60から65回／分(以下 60 台)の Image quality に著明な差を感じてきた。【目的】心拍数50台と60台の場合の画質の違いについて、位相検索ツール用い視覚的評価にて比較し、冠動脈 CT における至適心拍数について再考する。【方法】拡張中期における冠動脈の静止の程度を臨床経験3年以上を有する診療放射線技師5人により視覚評価を行う。なお、比較検証部位は右冠動脈(#2)とし、静止画像を excellent、モーションアーチファクトを帯びているが再構成に使用しうるもの fine、再構成に使用できないものを poor とし評価した。【患者管理】左室駆出率を考慮し、正常洞調律の患者を心拍数50台と60台各々無作為に10症例ずつ選択した。【総括】当院の128列 MDCT を用い至適心拍数について検討した結果推奨されてきた心拍数65回／分以下ではなく、左室駆出率などを考慮したうえで心拍数50台にコントロールすることで、静止画像が得られる確率がさらに高まると考える。